

地域課題の解決に向けた取組

地域の主伐・再造林等の森林整備コストの縮減に向けて

網走中部森林管理署

一 はじめに

網走東部流域では、民有林の人工林も主伐期を迎え、これからは伐採が進む一方、造林未済地の対応が課題となっています。

再造林に要するコスト負担と、事業を請け負う林業事業体（会社）の高齢化と人手不足が大きな問題となっており、それらの解消が課題となっています。

当署では、この課題解決に向けて、平成28年から、「工程管理システム」の活用と「コンテナ苗を活用した一貫作業システム（伐採から植栽までを一貫的に実施）の普及」の二点を軸に、地域の主伐・再造林等の森林整備コストの縮減に向けて取り組みを進めてきたところです。

二 工程管理システムの活用事例

「工程管理システム」は、後志森林管理署で作成した、木材の伐採搬出の生産性向上に向けた各作業段階の工程等を簡易に分析し、作業工程や作業システムの見直しに役立つ

するための簡易なプログラムで、一般公開しているものです。

当署ではこれまで、工程管理システムの説明会や、各種会議での紹介などを進めてきており、昨年度は、工程管理システムの活用を進めている林業事業体からのデータ提供を機会に、データをさらに分析し作業システムの改善に取り組んできたところです。



グラップル付きフォワーダ

この事業体では、木材の搬出に従来から使用しているトラクタと、近年使い始めたフォワーダを併用しており、現場段階ではトラクタの方が慣れていて使いやすいこともあり、使用していたところですが、工程管理システムにより数値化した結果（グラフ参照）、フォワーダが約2倍の作業効

率であることが確認できたところです。

事業体では「なんとなくフォワーダがよいと感じていた。グラフによりしっかり確認できた。」「今年度、フォワーダの追加導入に自信を持って踏み切ることができた。」との成果が得られたところです。



三 令和元年度の取組

① 工程管理システム
これまでの取組を更に進めるため、フォワーダ追加導入の結果と従来の作業システムとの比較など、改善した事例として情報提供します。

② コンテナ苗と一貫作業システム

今年度は、伐採から植栽、その後の保育作業までの使用を考慮した、森林作業道等の路網配置を考える検討会の実施を計画しています。

これは将来的に、主伐と再造林作業において高性能林業機械の機動力を活かすとともに、植栽後の保育作業においても活用できる効率的な道づくりが必要との観点からテーマとしたところです。

また今後、林業の中でも重労働となっている下刈り等の作業強度の軽減にも繋がればとの思いがあります。

四 おわりに

地域には、森林整備コストの縮減や、造林未済地の解消など、多くの課題があります。これらの課題解決には、地域の森林林業関係者の連携・協力はもちろんのこと、地域の皆様との意見交換をしながら進めていくことが重要と考えていますので、引き続きご協力をお願いします。



北海道森林管理局ホームページでも工程管理システムの取組をご覧いただけます。